

「中学生と乳幼児のふれあい体験学習」実践レポート

コーディネーター【 東広島市安芸津児童館子どもの家 】

日時	1回目：H30.7.5（木），9.10（月） 2回目：H30.9.18（火），9.19（水） のそれぞれ 10：00～11：15	中学生	東広島市立安芸津中学校 3年A組 38人，3年B組 38人
会場	1回目：安芸津児童館子どもの家 2回目：安芸津中学校 体育館	乳幼児	1回目：17組の親子（0歳～1歳半） 2回目：15組の親子（1歳半～未就園児）
活動の位置付け	家庭科の授業 ・ 職業体験 ・ 保育ボランティア ・ その他 （総合的な学習の時間）		

ねらい

現在、中学生は日常生活の中で乳幼児と接する機会が少なくなっている。多感な時期の中学生がこのふれあいを通して、皆大切な命を持っていることを実感し、改めて「自分を大切にすること」を考える機会にしてほしいとの思いから実施している。

内容

中学校と隣接する児童館を利用する親子に協力してもらい、中学生が、1回目は乳児、2回目は幼児という発達段階の異なる親子とのふれあいを体験する。当日の進行は児童館職員が行い、地域の母子保健推進員にも運営に協力してもらっている。

【1回目】おしえて おかあさん～赤ちゃんとのふれあおう～ 【2回目】幼児さんとあそぼう～成長を感じよう～

- ・抱っこってどうやってするの？（赤ちゃんの抱き方）
- ・幼児さんとふれあう前に（子供と接する際の諸注意）
- ・お母さんと話そう！（名刺交換，自己紹介，妊娠～出産までの経過，質問）
- ・お母さんと話そう！（名刺交換，自己紹介，質問）
- ・お母さん体験（スキンシップわらべ歌，マザーズバッグの
中身拝見，抱っこ体験，調乳・授乳体験）
- ・あそび体験（手遊び歌，ボール遊び，工作遊び）

ふれあい体験の様子（写真等）



中学校と乳幼児親子との間でどのようにコーディネートしたか

実施のきっかけは、平成18年度に家庭科の夏休みの宿題として「幼児とのふれあい」が出されたことからである。周りに幼児がいない生徒や将来保育士になりたい生徒のために、児童館が協力したことからこのふれあい体験学習が始まった。翌年からは、授業時間に3年生全員が参加する活動となった。

現在、児童館を利用する親子に声をかけて協力してもらい、参加する保護者には、体験学習の前に流れや説明をするための研修も行っている。

参加者（中学生，教員，保護者）の感想

中学生…不安があったがとても楽しかった。自分を育ててくれた家族や周りの人に感謝の気持ちを持った。子供に優しく接しようと思った。将来子供を持ったときに役立つと思う。

教員…乳幼児と接した事がない生徒が多く不安が大きかったようだが、この体験を通して、生徒は子供に対する親近感が増したり、自分の親への思いを感じとろうとしたりしていた。又、地域の方々にとっても中学生を身近に感じてもらえるきっかけになった。

乳幼児の保護者…普段接する機会のない中学生が、一生懸命子供と遊んでくれたりする姿はとても良かった。自分の子供が中学生になったらこんな感じになるのかなと想像できた。この体験に参加するために、久しぶりにエコー写真を見たり、家族で妊娠から現在までのことを振り返り、話す機会を持つことができた。子供も中学生とふれあうことで刺激を受け、良い体験ができたと思う。自分が中学生の頃に、乳幼児とのふれあいを体験できていたら、子育てに対する不安が軽くなったかもしれない。

主催者にとっての成果と課題

成果…この体験を通して、多くの中学生は乳幼児への慈しみの感情が湧き、同時に親子の様子や話を聞くことによって、自分もこうやって育てられてきたのだと感謝の気持ちを持ったようだ。また、乳幼児の保護者にとってもこのプログラムを実施するにあたり、家族間で妊娠から現在までのことを振り返り、コミュニケーションを図る機会を持ったようだ。

課題…親子ボランティアさんの確保。中学生とふれあうにあたって、参加保護者に不安を与えないようプログラムについて丁寧かつ慎重に説明し理解を得られるように努める。